

## 2015年度採択 学術図書出版推進プログラム 研究成果報告書

採択者	所属機関・職名：国際関係学部・教授 氏名： 南川 文里
書名	アメリカ多文化社会論：「多からなる一」の系譜と現在

### 出版物の概要

出版の目的・意義、出版物の目次（項目）等について、概要を記入してください。

『アメリカ多文化社会論：「多からなる一」の系譜と現在』は、歴史的に異なった文化的背景を持つ人々を抱えてきたアメリカ合衆国において、多文化社会をめぐる構想が、どのように変化してきたのかを、具体的な政策・制度・社会運動のなかに位置づけながら議論するものである。アメリカ合衆国は、その成立以来、多様な背景を持つ人々を社会の一員として包摂する「多からなる一（e pluribus unum）」という考えを、その国家理念の中心に置いてきた。本書では、この「多からなる一」の理想を実現させるための理念的・制度的枠組を編入様式（modes of incorporation）と定義し、アメリカ社会における編入様式の歴史の変遷と、21世紀に直面した新しい人種や多様性をめぐる課題への取り組みを検証することで、アメリカ型の多文化社会の成立基盤を明らかにする。

本書の意義は以下の3点である。第1に、既存の研究では、黒人、ヒスパニック、先住民などの個別集団の事例を中心とする傾向があるのに対し、本書は、アメリカ多文化社会の全体像を描くことを目的とした点にある。本書は、個々の集団の歴史をふまえつつも、人種エスニック関係を規定するアメリカ社会全体の構造的・思想的変動に注目する。第2に、アメリカ多文化社会の全体像をめぐる議論では、思想史・文化史的な議論を中心とする傾向があった。このような流れに対し、本書では、多文化社会の理念を、具体的な社会運動や政策実践のなかに位置づけ、その社会的帰結を歴史的な脈のなかで明らかにする歴史社会学の視角を採用した。第3に、アメリカ型多文化社会のあり方をさぐるための基本的視角として、人種主義（racism）の重要性を強調している。ここでいう人種主義とは、狭義の差別意識や行動に還元するのではなく、構造的に集団間の不均衡が再生産されるメカニズムとして再定義した人種編成論に依拠している。本書では、アメリカ型多文化社会をめぐる編入様式が、それぞれどのように同時代の人種主義と対峙し、また結びついてきたのかを明らかにする。本書の目次は以下のとおりである。

『アメリカ多文化社会論：「多からなる一」の系譜と現在』（法律文化社、2016年）合計220頁。

はじめに：「多からなる一」という理想	1
第I部 多文化社会の歴史的形成	
第1章 「移民の国」の理想とその歴史的展開	12
第2章 アメリカ人種主義体制と文化的多様性	31
第II部 「多からなる一」の歴史社会学	
第3章 「単一のアメリカ」への同化	56
第4章 文化多元主義とエスニシティ	76
第5章 アメリカ型多文化主義の成立と展開	97
第6章 多文化主義をめぐる論争	118
第III部 多文化主義以後の人種と編入様式	
第7章 ポスト公民権時代の新しい人種主義	140
第8章 アメリカ多文化社会の未来へ	164
おわりに：「多文化共生」社会の新たな構想のために	188

以上。